

4年振りの招集開催 大軍拡阻止 生活できる賃金を 第94回 デモ

中央 代々木公園に1万5000人 4年ぶりにデモカーも

5月1日に開かれた中央メーデーは、4年ぶりにコロナ禍以前の、通常通りの形での開催となりました。新たに人口芝の張られた代々木公園サッカークラブコートには1万5千人(東京土建は1144人)が集結しました。

主催者あいさつで、メーデー実行委員会の小畑雅子さん(全労連議長)は「コロナ禍で、新自由主義経済政策の矛盾があらわになった」と述べ、「戦争が平和かの重大な岐路に立つ今、大軍拡・大増税、改憲ではなく憲法を生かし、平和な日本をつくるために、幅広い団結を」と呼びかけました。その後、連帯のあいさつに立った浅倉むつ子さん(安保関連法に反対する学者



晴天のもと行進する参加者

の会)は「働く人々の生活の安定が極めて大事、生活が安定してこそ民主主義への関心が高まる。労働運動を担うみなさんが声を上げることが期待する」と述べました。

集会后は多彩な要求、スロガンを掲げる労働者と共に、青山コースを歩きました。会場での飲食が厳しく制限されたこともあり、デモの出発は例年よりも1時間ほど前倒しとなりました。東京土建は青山コースの最後の団体として元気よく出発。4年ぶりに登場した各支部のいきやかなデモカー(4・5面

より良い建設産業を しっかり賃金払える単価に 三多摩



各支部からの代表が勢ぞろい

「働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をメインスロガンの第94回三多摩メーデーが5月1日、今回は午後開催へ変更して井の頭公園西園で行なわれました。

ウィークデーにも関わらず1500人超(主催者発表)の参加者がありました。

集会の冒頭、主催者である実行委員会を代表してあいさつに立った渡辺義久実行委員長(東京土建副委員長)は、「すべての労働者の最低賃金を今すぐ1500円以上に上げて、物価高騰分を上回る大幅な賃金の引き上げで生活改善

憲法集会に2万5000人 コロナ流行後で最大規模



集会後のパレード

5月3日、有明防災公園で憲法大会が開催され、新型コロナウイルス流行以降では最大規模となる2万5000人(東京土建は304人)が参加しました。

開会にあたり、集会実行委員会を代表して高田健さんがあいさつ。「本日の集会の目的は、新たな戦前にしない事。岸田政権は敵基地攻撃能力の保有を明記した安保3文書を閣議決定して戦争の準備をしている。しかし我々は絶対に戦争させない、憲法改悪をさせない。そのために、首相の

任中に国民投票を阻止しよう」などと述べました。

続いて、室蘭工業大学教授・清末愛紗さん(憲法学)、沖縄九州大学地域研究所特別研究員・泉川友樹さん、漫画家の東村アキコさんの3人がスピーチを行ないました。

政党からは、西村智奈美(立民)、志位和夫(共産)、くしぶち万里(れいわ新選組)、福島瑞穂(社民)の各氏が連帯のあいさつを行ないました。

集会終了後、豊洲と台場に向けてパレードを行ないました。

を囚らなければならない」と訴えました。

各単産、地域組織からの課題別アピールで、東京土建は三多摩各支部の代表とともに本部の実行委員が登壇。小坂

剛常任中執が、「労使混在の組織をまとめながら、春と秋に行なう大手企業交渉で下請の事業主が職人にしっかり賃金を払える単価を要求してより良い建設産業を目指して奮闘している」と発言しました。

最後にメーデー宣言を採択し、昨年は宣伝カーによる自動車パレードのみでしたが、今年は4年ぶりに吉祥寺の街へデモ行進を行ないました。

軍拡財源にまい進 岸田政権の退陣求めて訴え



雨の中、岸田打倒を叫ぶ参加者

4月26日、参議院議員会館前で国民大運動実行委員会などが主催する211回通常国会に向けての定例の行動が実施され、140人(東京土建は55人)が参加しました。

主催者を代表して東森英男さん(安保放棄中央実行委員会事務局長)は「後半国会は大軍拡、戦争準備をして国民生活と民主主義を壊す岸田政権がくりだす悪法を粉砕する闘いの場だ。『軍拡財源確保法案』は憲法の平和主義と財政

民主主義を踏みしめる違憲立法。この中には国立病院などの建替えや改修費を軍事費に振り替える内容も含まれ、絶対許すことはできない。その他にも入管、マイナンバー、原発新増設など悪法が目白押しだ。これらを許さず岸田政権を追い詰めよう」と訴えました。その後、穀田恵二議員(共産)の国会報告と、2団体から決意表明がありました。

国会前行動に初めて参加した恒吉典子さん(葛飾)は「岸田首相のやることは『保身』ばかり。国民の声を無視している」と話していました。集会終了後、東京土建の参加者は「社会保障拡充・庶民生活本位の税制への転換・憲法の遵守を求める要請書」を持って議員要請を行ないました。



核なき世界を目指して行進

今年も東京・夢の島公園内の都立第五福竜丸展示館前で、5月6日に国民平和行進の出発集会が開かれました。

日本原水協

第五福竜丸展示館前で 平和行進の出発集会開催

代表理事の高草木博さんは「66度目となる今年、世界がもっとも強い反核平和を求め

高校生・学生平和セミナーの女子生徒は、沖縄現地で学習もふまえながら「唯一の折、突風にあらわれながら

語られました。

被爆国である日本がどこよりも先頭に立って平和を唱えるべきだ」と訴えました。あいさつに立ったのは、登壇者からも、

「66度目となる今年、世界がもっとも強い反核平和を求め